

国際シンポジウム題名	京都大学国際シンポジウム 2025:アジアにおける地球環境学の教育研究に関する国際シンポジウム -持続可能な食糧システムと生活の向上に向けて-						
開催日	令和7年12月2日～令和7年12月3日(2日間)						
主催部局	地球環境学堂						
協力部局名	農学研究科、工学研究科、人間・環境学研究科、経済学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、東南アジア地域研究研究所、フィールド科学教育研究センター、ASEAN 拠点						
開催地	<table border="0"> <tr> <td>国名</td> <td>インドネシア</td> </tr> <tr> <td>開催地</td> <td>ボゴール</td> </tr> <tr> <td>会場名</td> <td>IPB University</td> </tr> </table>	国名	インドネシア	開催地	ボゴール	会場名	IPB University
国名	インドネシア						
開催地	ボゴール						
会場名	IPB University						
共催大学・機関名	<p>参画機関:【インドネシア】IPB 大学、バンドン工科大学;【タイ】マヒドン大学;【ベトナム】ハノイ理工科大学、フエ大学、ダナン大学、フエ農林大学;【マレーシア】マラヤ大学;【中国】清華大学深圳国際研究生院;【カンボジア】王立農業大学;【ラオス】チャンパサック大学;【フィリピン】フィリピン大学ロスバニョス校</p>						
シンポジウム開催概要	<p>12月2日にインドネシア・ボゴールのIPB大学において、「アジアにおける地球環境学の教育・研究」をテーマに京都大学国際シンポジウムを開催した(Zoomによるハイブリッド配信)。主な目的は、アジア地域を中心とした国際環境協力を通じた持続可能な食糧システムと生活の向上について議論し、京都大学とその連携大学間での教育・研究の国際的な発展を図ることである。基調講演とポスターセッション(口頭発表を含む)、パネルディスカッション、国際共同研究プロジェクトセッションを実施した。参加者は、アジア・欧米・アフリカ27カ国91組織から研究者や学生、民間企業関係者など、合計353名であった。</p> <p>シンポジウムは、京都大学 田中千尋地球環境学堂長、小林広英地球環境学堂教授、Ernan Rustiadi IPB大学副学長による開催の辞から始まり、西前出地球環境学堂副学長、Ernan Rustiadi IPB大学副学長、縄田栄治ASEAN拠点長による基調講演が行われ、続いてポスターセッション(研究発表62件)が行われた。午後には、京都大学、IPB大学、バンドン工科大学、王立農業大学、ハノイ理工科大学、ダナン工科大学、フエ農林大学、フエ科学大学を代表する研究者によるパネルディスカッション、国際共同研究プロジェクト(8件)に関する発表が行われた。</p> <p>学堂HP: https://www.ges.kyoto-u.ac.jp/news/events/20251225_26285 (学堂国際シンポジウムページ) https://www.ges.kyoto-u.ac.jp/activities/international-symposium 京大HP:https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2025-12-26-0</p>						
シンポジウム開催報告をホームページに掲載している場合のURL	https://www.ges.kyoto-u.ac.jp/news/events/20251225_26285 (学堂国際シンポジウムページ) https://www.ges.kyoto-u.ac.jp/activities/international-symposium 京大HP: https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2025-12-26-0						
参加者数(聴衆を含む)	353人						